

第24回 With You さいたま フェスティバル 開催

県内で活動する
37団体が成果を
発表しました

2月7日(土)8日(日)の2日間、第24回With You さいたまフェスティバルを開催しました。

施設を一部改修中であり会場が手狭な中での開催でしたが、男女共同参画の視点を持って県内で活動を行う37団体が日頃の成果や研究結果を発表しました。

8日はあいにく大雪となりましたが、2日間で900人を超える方々にご来場いただき、出展者、来場者の方々の熱気で盛り上がりしました。

また、今回は2月1日～23日の間、オンライン展示を当センターホームページ上で開催し、たくさんの方に閲覧いただきました。

第24回With You さいたまフェスティバル開催報告

フェスティバルの様子を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/event/report/r/24th-festival-report.html>



福島県(復興支援ブース)



埼玉県社会福祉士会



883+1 WORKS



川越市女性団体連絡協議会



埼玉大学 ダイバーシティ推進センター



Spring Up



Your Note



さいがいつながりカフェ実行委員会

『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』

～著者と考える「半身」の生き方、働き方～



文芸評論家 三宅香帆 さん
京都市立芸術大学非常勤講師

2/8(日) With You さいたまフェスティバル講演会

フェスティバルの最後を飾る講演会には、文芸評論家で京都市立芸術大学非常勤講師の三宅香帆さんをお招きしました。

本当によい本とは、人生を変えてしまうくらい刺激的な本であること。そして読書の醍醐味とは、そんな本に出会うこと。そんな本を紹介したいし、自分でも書いてみたい、と本に関わる発信をしていると自己紹介されました。

最近では本は教養、知識を得るものから、知りたい情報をピンポイントに得るものに変容してきており、知りたい情報の背景文脈や周辺知識はノイズとされ好まれなくなった。しかし、

ノイズがなくなると新しいアイデアが生まれず、他者への想像力がなくなるのではないかと危惧されました。

ノイズを取り入れるためには「半身」＝「全身全霊」でない働き方が必要で、仕事以外の文脈を生活に取り入れることが大切だと話されました。これからは仕事も生活も半分半分になるとよいのではと提案されました。

いつも本を机の上に置いておく、カバンの中に入れておくなど手取りやすくして、皆さんに本を読みたいと思ってほしいとまとめられました。

会場からは活発に質問の手が挙がり、丁寧ににお応えいただきました。